（前頁より）

参加費：事前/当日　4,000円

※当日は、アルカスSASEBOから懇親会会場までシャトルバスを運行いたします。

※日本医療マネジメント学会へ入会される方は、学術総会参加登録とは別に手続きが必要となります。

※詳細は、日本医療マネジメント学会雑誌13巻1号及び第14回日本医療マネジメント学会学術総会ホームページ（下記記載）を参照ください。

問い合わせ先
日本医療マネジメント学会2012合同運営事務局
株式会社コングレ　九州支社内
TEL：092-716-7116　FAX：092-716-7143
E-mail：jhm2012@congre.co.jp
第14回日本医療マネジメント学会学術総会・日本医療マネジメント学会第11回九州・山口連合大会ホームページ
http://www.congre.co.jp/jhm2012

開催報告 分科会

2011年度第1回医療連携分科会

（有）あおい訪問看護ステーション代表取締役　小野久恵

会場風景

2012年2月18日（土）、日本医療マネジメント学会2011年度第1回医療連携分科会が『地域連携と医療計画の見直し～急性期から在宅まで切れ目のない連携を目指して～』をテーマに国際医療福祉大学大学院で開催されました。

最初に唐澤 剛厚生労働省大臣官房審議官より、基調講演1「医療政策の課題と展望～地域ネットワーク型医療介護システムの必然性～」が行われ、医療介護サービスの循環的な提供体制を構築するため、地域の実情を反映したビジョンと適応したビジネスモデルを開発していく必要があると述べられました。

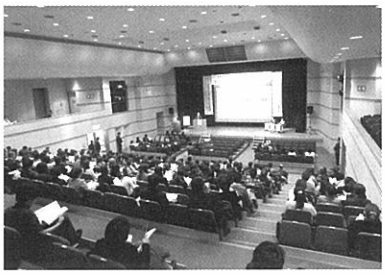
基調講演2「医療計画見直しと地域連携」では、武藤正樹国際医療福祉大学大学院教授より、社会保障・税一体改革は2025年へ向けてのグランドデザインであること、2012年同時改定、2013年新医療計画でも地域連携とくに医療と介護の連携が最大のテーマであること、また地域連携コーディネーターの養成が喫緊の課題であることが述べられました。

午後からは地域連携について、急性期病院、訪問看護ステーション、保険薬局、精神科地域連携クリティカルパス、医療福祉連携士の役割と5つの視点から講演が行われました。特に「精神科地域連携クリティカルパスについて」では、精神疾患を有する利用者への訪問看護を提供している一人として、患者の自立、社会復帰に向けて、地域連携を充実させていく必要性があるということについて大変共感する内容でした。また、「保険薬局と地域連携」は、在宅における服薬管理の現状を考えると、薬剤師との連携は必要不可欠と感じていたため、今後に期待が膨らむ内容でした。他の先生方のお話もとても参考になり大変有意義な分科会となりました。

開催報告 支部学術集会

第7回奈良支部学術集会

世話人：奈良県立五條病院院長　松本昌美


会場風景

2012年2月4日（土）、橿原市の奈良県社会福祉総合センターにおいて、第7回奈良支部学術集会を開催いたしました。「良質な医療を追究する－チーム医療の充実と発展－」をメインテーマに掲げ、県内の医療関係者約500名の参加をいただき、活発で有意義な学術集会となりました。

特別講演では、社会医療法人近森会近森病院院長の近森正幸先生に「チーム医療の充実と新たなる展開」と題して、急性期医療の根幹部分では医師中心の専門部隊型もたれあい型チーム医療を、周辺部分ではコメディカル中心の病棟配属型レゴ型チーム医療を展開することが重要であることなどを講演していただきました。パネルディスカッションは、テーマを「患者中心のトータルケアを目指して」として、各種の医療チームでリーダーとしてご活躍の先生方にお願いし、施設でのチーム医療の現状とその効果、さらに課題を明らかにして、患者中心のトータルケアを目指すための方策を短い時間の中で議論していただきました。また、一般演題52題（口演発表41題、示説発表11題）では、5会場で活発な討論が行われました。ランチョンセミナーは、高松赤十字病院内分泌代謝科部長の佐用義孝先生による「糖尿病治療とチーム医療－高松赤十字病院での取り組み－」と、日本医科大学附属病院薬学部部長の片山志郎先生による「緩和薬物療法における副作用管理と相互作用管理」という講演をお願いし、大変盛況でありました。

最後に、本学術集会が今後も発展し、奈良県の医療の向上に寄与することを切望いたしますとともに、学会役員、会員、参加者の皆様をはじめ、ご協力いただきました関係各位に深謝申し上げます。